

現代の人は物質文明の結果頭が進んで来て、單に音楽だけ味ふに止まらず、種々のものを同時に味はんと要求するのである。光と音とそれに句とを合致させ、同時に味はうといふ理想で試み見ても、まだそれは實現出來ない。軍備擴張のために神経過敏の極に達してゐる現代に於いては、音楽は實に落ちつきのない状態にあるのである。この戦争によつて、この鼻もちのならぬ音楽の打ち倒された後に、初めて二十世紀の進んだ音楽は生れ出るのであらう。そしてそれはすべての感覺を結びつけた所の音楽であつてロシアからあらはれるに違ひないと思ふ。(文責在幹事)

□襪の名前

專 一

二三日前に「襪には名前を付けておくやうに」と何つてあつた時のことであつた。体操の時間に平均臺を渡つて行く皆の後を見てゐるうち、ふと襪のことを思ひ出した、未だ名前を書いてない人、布地へちかに墨で眞黒に書いた人、インクでなすり付けてある人、などのある中に、ふと友のはと見ると、如何にも氣持よく、しんを入れてしつかりさくけた襪のはし、に似寄つた色のより糸で一針一針細かに學年までも縫ひ込めて、丁寧に出來てゐる。「物事は、いゝ加減にしておけば、又きつこやり直したりしなればなりません。結局始めから徹底的にしておくに限るを存します。」と云つてゐた友の言葉を思ひ出して、大きく一人うなづいた。

大正六年
に於る
國語教授界の諸研究